

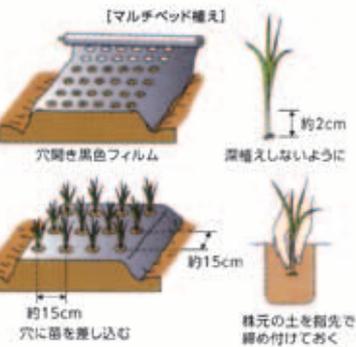
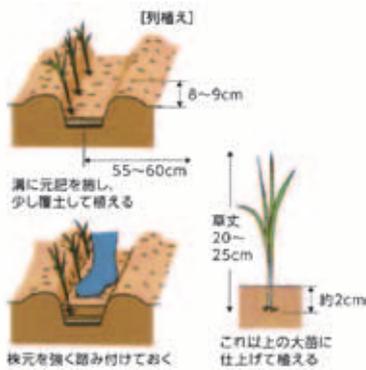
# タマネギ苗の 上手な植え付け



9月に種まきしたタマネギ苗は、10月下旬から11月

が植え付けの適期です。5〜6mm径に太り、葉がしっかりとし、根がたくさん付いた苗を選びましょう。最近では3号ポリポットにじかまきし、十数本立てにしたポット苗も出回り始めました。鉢土を外し、根がしっかりと付いた状態で植え付けられるので、お買い得です。

タマネギは、真冬に入るまでに十分地中に根を張らせ、春には勢い良く育つようにすることが大切です。そのためには元肥を適切に施し、特にリン酸成分（溶成リン肥や過リン酸石灰）を欠かさず。火山灰土壌



では多めに与えておくことが大切です。

根の性質が野菜の中では特異的で、通気性の良さを好まず、乾燥を嫌うので、元肥に堆肥は与えず、植え付けた後は根元を強く鎮圧しておくことが大切です。油かすや魚かすなどにはタネバ工が卵を産み付け、幼虫が根元に食い込む被害が出るので、与えないでください。

植え付け方法には、8〜9cmほどの深さの植え溝を55〜60cm間隔で作り、化成肥料と過リン酸石灰などを施して土を掛け、並べて植える列植え方式と、肥料を畑全面に20cmほど耕し込み、幅90cmほどのベッドを

作り、植え穴の間隔が15×15cmぐらいの黒色ポリフィルムを敷き、その穴に苗を押し植えするマルチベッド植えがあります。

列植えは一定の深さに溝を付け、苗を同じ深さにそろえて植えるので、植え付け作業が速く苗の姿勢が良く、株元の踏み付け鎮圧がしやすいです。また生育後期に、列間に後作（インゲンマメ、ラッカセイ、シヨウガなど）を作付けすることにより、畑の高度利用ができます。

一方のマルチベッド植えは、地温を高め、乾燥を防ぎ、雑草を抑制し、肥料の滅亡を少なくする効果があります。ただし植え付け、株元の鎮圧には手間がかかります。

植え付け作業のポイント  
は、苗床から苗を抜き取る  
とき、乾いていたら灌水（か  
んすい）し、苗の大きさを  
そろえ、できるだけ根を付  
けて抜き取り、植えるとき  
は根を下方に向けて深く

入るよう植えることです。

ベッド植えでは木製の穴開け道具を作り、きちんと植え穴を作り、根を下方に向け深さをそろえて植え、株元を指先で押さえ締め付けておきます。植え付けの深さは根の上に土が2cmほど掛かる程度に。緑葉の部分まで土が掛かるのは深過ぎで、後の育ちが良くありません。

板木技術士事務所  
●板木利隆

## 「JA版農業電子図書館を」つかってみよう!!

当JAでは、病害虫や雑草、農業など生産に関する情報が簡単に検索できる、タッチパネル式の情報端末「JA版農業電子図書館」を窓口相談機能の充実と、迅速な指導や最新情報の提供等、組合員サービスの向上を図るため、営農施設に設置しています。

皆様のご利用をお待ちしております。

\*設置店舗：総合営農経済センター  
片貝営農センター  
千田園芸資材センター



病害虫・雑草診断など簡単に操作できます!!  
探したい項目を指でタッチ!!